



題字・天野貞祐

第 62 号

平成16年5月10日発行

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03(3946)6352(直通)

獨協同窓会 発行責任者 宮田和夫

----- 主な内容 -----

60年経て、懐かしき母校・級友.....	雪山伸一.....(1)
定期総会・懇親会のお知らせ.....	(3)
平成15年度決算書.....	(4)
平成16年度予算書.....	(5)
ひろば.....二人の胸像.....	新宮譲治.....(6)
クラス会幹事始末記.....	竹内文生.....(7)
天野貞祐先生こぼれ話.....	佐藤明德.....(9)
平成16年度大学別合格者数.....	(10)
学園だより.....	(11)
図書館だより.....	(11)
私の近況.....	(12)
クラス会だより.....	(13)
返信はがき職業欄記入例.....	(16)

60年経て、懐かし母校・級友

台湾の同窓生を訪ねて

大正半ばから敗戦まで、旧制獨協中学には当時植民地だった台湾出身の生徒が大勢学んでいた。その数およそ70人。もう高齢だし、戦後60年近くを経て消息の分からなくなった方がほとんどだ。

そうしたなか、連絡の取れた5人の同窓生に会いに台湾を訪れた。昭和18年から21年に卒業された方たちである。大学を頂点とする総合学園となった母校の発展に驚き、新校舎の写真に感激しながら、戦時中の学校生活の思い出と、その中で結ばれた友情を語ってくれた。(次ページにつづく)



<高雄で> 左から新宮譲治先生、林文仁さん、許清泉さん、劉祐上さん

<宜蘭で> 左から陳成章さん、陳以文さん

お会いしたのは、南部の高雄で劉祐上さん（昭18年卒）、林文仁さん（昭19年卒）、許清泉さん（昭21年卒）、北部の宜蘭で陳以文さん（昭20年<5>）、陳成章さん（昭20年<4>）のご兄弟。

出発を翌3月8日に控えた朝、陳以文さんから電話をいただいた。「64年前の3月8日に、獨協中学に入学するため、私は父親に連れられて台湾を発ち、3泊4日かけて東京に向かいました。同じ日にみなさんが台湾に来られる。何か因縁のようなものを感じます」。

敗戦とともに日本と台湾は切り離され、同級生同士のつながりを別とすれば、母校と台湾出身の同窓生との絆も断ち切られた。この台湾訪問は、その絆を結び直すための旅でもあった。

この訪問には私の獨協時代の師であり、いま獨協大学で獨協学を講じておられる新宮譲治先生に同行していただいた。また同窓会に旅費を補助していただいた。高雄と宜蘭で聞いた延べ10時間以上に上のおよぶ思い出は次号に掲載する予定だ。ここではそのいくつかを紹介するにとどめたい。

◆なぜ獨協をめざしたのか

5人が獨協に進学したのは医者になるためだった。医者は医療の遅れた台湾では需要が多かったし、知識人として地域の尊敬を集める職業でもあった。しかし、日本人を優先する台湾の教育制度の下では、台湾人の子弟の上級学校への進学はきわめて狭い門だった。ゆとりのある家庭では子弟を東京に送った。東京の方が差別は少なかったのである。そして、獨協の名は台湾でも医大へ進学するための特別な学校として知られていた。

林文仁さんは、すでに東京の女子医専で学んでいた姉を頼っての東京行きだった。

陳さん兄弟の父は台北医専の第1回生。宜蘭で開業し、男の子4人を獨協に進学させた。将来医院を病院に拡大するのが夢だった。

「船旅を終え、神戸から夜行に乗って早朝に兄たちの住む横浜に着いたときはふるえるほど寒かった。出迎えてくれた兄がオーバーの前を開いて私を包み込んでくれた」と以文さんは思い出す。

◆無惨な戦時下の学校生活

しかし、戦争は5人の医師への夢をうち砕いた。劉祐上さんは獨協を卒業して慶応医学部の予科2年在学中に敗戦を迎え、医師の道を断念して台湾に帰国した。陳以文さんは昭和19年秋、空襲が激

しくなり勉強どころではなくなると、やはり医師をあきらめ、陸軍特別幹部候補生に志願した。それがお国に尽くす道と見えたからだ。弟の成章さんにも兄の決意を翻させる言葉はなかった。

戦時下の獨協は勉学の場ではなかった、と許清泉さんは言う。昭和17年に入学したころは医師をめざしてがんばった。ところが3年生の後半になると焼け跡の整理に駆り出され、軍需工場に動員される。教科書も手にできない毎日。そして、敗戦。日本と台湾が切り離されると、親からの送金も届かなくなった。平和は戻ったものの、勉学をあきらめねばならない瀬戸際に立たされた。

「獨協にはいい思い出は何もない」と許さんは言い切った。「それでも今日ここにきたのは、命の恩人ともいべき友人のことを皆に知ってもらいたいからです」と言葉をつないだ。

戦火が激しくなったころ、級友に勧められて麴町から川口にある級友の持ち家に引っ越した。数日後、麴町は空襲で全滅した。敗戦後、台湾からの仕送りが途絶えたのを知った別の級友の父親が部屋を提供し、学費も払ってくれた。「あの2人の友がいなかったら、今の私はなかった」。

帰国後、師範学校に入り直して教員になった劉さんを除いて、4人の最終学歴は「獨協中学卒」。いま5人とも穏やかな老後を過ごしているとはいえ、希望に胸ふくらませて東京に旅立ったときとその後の現実が大きく違ったことは間違いない。

◆同級生の絆は断たれず

高雄で会った3人は、近くに住みながら、これまで互いに一面識もなかった。母校との絆が切れると、同窓の絆も同時に消える。私たちの台湾訪問は同窓生同士をつなぐ旅にもなった。

帰国後、劉祐上さんから手紙をいただいた。そこには「この機会に、林文仁、許清泉さんたちにも会えて、在学中の思い出も話せました。今後もよく連絡を取って、お互い老後の楽しみとします」と書いてあった。

同窓会名簿には台湾の同窓生14人の住所が登録されている。しかし連絡が取れたのは5人にとどまった。これが10年早かったら、と思う。そして、卒業後60年、遠く離れても連絡を取り続けていた同級生たちの友情がなかったら、名簿に住所が登録されることもなく、そもそも今回の台湾訪問も不可能だった。（昭35卒、常任幹事・雪山 伸一）

6月19日に平成16年度総会

平成16年度獨協同窓会総会・懇親会を下記のように開催いたします。

日時：平成16年6月19日(土)

場所：

総会 獨協中学・高校小講堂 午後5時開会

懇親会 椿山荘 プラザ1階 ギャラクシー

午後6時30分

(受付：午後6時から)

総会付議事項：

第1号議案 平成15年度事業報告及び

平成15年度収支決算報告の件

第2号議案 平成15年度収支差額金処分案

承認の件

第3号議案 平成16年度事業計画及び

平成16年度収支予算案承認の件

懇親会費：(会場受付で頂きます)

昭和14年以前の卒業生……………無料

昭和15年～平成10年の卒業生……………5,000円

昭和11年～平成15年の卒業生……………2,000円

平成16年の卒業生……………招待

◇出欠のご返事は同封のはがきで6月10日必着をお願いします。欠席なさる方は付議事項をご検討のうえ、はがきの委任状欄に記名・押印してください。

総会・懇親会のご案内

上記のように、平成16年度の総会・懇親会を開催致します。

総会では、前年度の事業報告、決算案を協議して頂くこととなります。前年度は学園創立120周年に際し、中学・高校では奨学金の基金創設が計画され、後援会、父母会及び同窓会へ協力依頼があり、寄付を行いました。また、昨年度は総会後の懇親会に多数の新卒者が参加したことで、総会費が予算を上回り、予備費からの繰り入れで対応しております。そのほか、「獨協通信」の送付方法を郵便から宅配業者に移行したことで事業通信費が大幅に節約できました。

平成16年度事業計画及び予算案の審議については、特に大きな事業はありませんが、来年度春に名簿の改訂版を発行することが計画されていますので、その準備があります。その他の事業計画は例年通り、総会と会報の作成です。

◆2005年、新名簿発行へ

同窓会では来春2005年5月に新名簿を発行します。現在の名簿は2000年発行で、すでに4年が経過しました。その間、会員諸兄の住所の移動も多

数に上り、新たにまとめることが必要と思われま。会員の皆さん、住所移動は事務局に必ずご通知下さい。なお、クラス会幹事の皆さん、クラス会開催時に作成された名簿を、まとめて事務局へご送付下さい。

◆2004年度会費納入の会員には新名簿を送付

2004年度会費納入の会員には2005年版名簿を送付します。なお、会費免除の会員(昭和20年〔5卒〕以前の会員)の方々に、名簿を希望される方には、恐縮ですが、実費5,000円で頒布します。同窓会事務局へご一報下さい。

現役員氏名

会 長：宮田 和夫 (昭24卒)
副 会 長：合田 憲 (昭38卒)
" : 森上 克彦 (昭47卒)
監 事：大場 莊介 (昭23卒)
" : 中嶋 眞治 (昭25卒)
幹 事 長：中村 昭美 (昭41卒)
副幹事長：谷口 有三 (昭53卒)
会 計：高野 邦彦 (昭40卒)
会報編集：竹内 文生 (昭46卒)

獨協同窓会 平成15年度 収支決算書

平成15年4月1日から
平成16年3月31日まで

収入の部

(単位: 千円)

科目	15年度決算額(A)	15年度予算額(B)	(A)-(B)	摘要
1 入会金	6,090	6,000	90	30,000円×203名
2 会費	7,115	7,000	115	5,000円×1,423件
3 寄付金	134	10	124	
4 事業収入	321	310	11	
総会会費	306	300	6	
名簿売上代	15	10	5	
5 資産運用収入	194	150	44	利息等
6 奨学資金積立金より繰入	10,000	10,000	0	
7 その他事業積立金より繰入	1,000	1,000	0	
8 雑収入	7	10	△3	
合計	24,861	24,480	381	

支出の部

科目	15年度決算額(A)	15年度予算額(B)	(A)-(B)	摘要
1 事業費	19,613	20,800	△1,187	
(1)総会費	2,149	2,150	△1	総会、懇親会費*
(2)会報費(獨協通信)	4,820	4,850	△30	60,61号制作費*
(3)事業通信費	1,713	2,500	△787	会報発送費等
(4)慶弔費	132	200	△68	
(5)渉外費	60	100	△40	諸会費等
(6)クラス会補助	300	500	△200	
(7)卒業生記念品費	439	500	△61	
(8)中高事業補助	—	—	—	
(9)120周年記念事業補助	10,000	10,000	△0	
2 事務費	2,120	3,300	△1,180	
(1)事務運営費	449	900	△451	事務通信費、振込手数料等
(2)管理費	886	1,000	△114	事務局費等
(3)会議費	192	500	△308	
(4)旅費交通費	465	500	△35	
(5)名簿管理費	96	300	△204	
(6)雑費	32	100	△68	
3 予備費	0	300	△300	*
小計	21,733	24,400	2,667	
4 収支差額金	3,128	80	3,048	
合計	24,861	24,480	△381	

*『予備費』当初予算額700千円のうち、『総会費』へ350千円振替。
『会報費』へ50千円振替。

貸借対照表

平成16年3月31日現在
(単位: 千円)

公社債	20,000	(基本財産) 基本金	17,000
貸付信託	9,800	(運用財産) 事業積立金	23,137
定期預金	12,000	(1)名簿積立金	4,000
		(2)一般事業積立金	19,137
現預金	1,465	収支差額金	3,128
	43,265		43,265

※定期預金は3行に預託。

収支差額金処分案

次のとおり、全額積立金に繰入のこととしたい。
(単位: 千円)

基本金	500
名簿積立金	1,000
その他事業積立金	1,628
計	3,128

獨協同窓会 平成16年度収支予算書(案)

平成16年4月1日から
平成17年3月31日まで

収入の部

(単位：千円)

科目	16年度予算額(A)	15年度予算額(B)	(A)-(B)	摘要
1 入会金	6,000	6,000		30,000円×200名
2 会費	8,000	7,000	1,000	5,000円×1,600件
3 寄付金	10	10		
4 事業収入	310	310		
総会会費	300	300		
名簿売上代	10	10		
5 資産運用収入	150	150		利息等
6 奨学資金積立金より繰入	—	10,000	△ 10,000	
7 一般事業積立金より繰入	—	1,000	△ 1,000	
8 雑収入	10	10		
合計	14,480	24,480	△ 10,000	

支出の部

科目	16年度予算額(A)	15年度予算額(B)	(A)-(B)	摘要
1 事業費	10,500	20,400	△ 9,900	
(1)総会費	2,000	1,800	200	総会、懇親会費
(2)会報費(獨協通信)	4,800	4,800		62,63号制作費
(3)事業通信費	2,000	2,500	△ 500	会報発送費等
(4)慶弔費	200	200		
(5)渉外費	100	100		諸会費等
(6)クラス会補助	300	500	△ 200	
(7)卒業生記念品費	500	500		
(8)中高事業補助	200	—	200	図書館
(9)120周年記念事業補助	—	10,000	△ 10,000	
(10)「名門校ベスト100」協賛	400	—	400	
2 事務費	3,300	3,300		
(1)事務運営費	900	900		事務通信費、振込手数料等
(2)管理費	1,000	1,000		事務局費等
(3)会議費	500	500		
(4)旅費交通費	500	500		
(5)名簿管理費	300	300		
(6)雑費	100	100		
3 予備費	600	700	△ 100	
小計	14,400	24,400	△ 10,000	
4 収支差額金	80	80		
合計	14,480	24,480	△ 10,000	

会務報告 (平成15年4月～平成16年3月)

常任幹事会 4月19日、10月18日
幹事会 5月10日、11月8日
総務委員会 10月13日、1月9日
4月2日

総会 6月21日
総会準備委員会 6月14日
*
理事会・評議委員会
5月28日、7月24日、9月25日、11月27日
1月22日、3月12日、3月26日

秋の同窓会日程

常任幹事会 10月16日(土)
母校小会議室
幹事会 11月13日(土)
市ヶ谷アルカディア



道路の拡張に伴い様変わりした音羽通りです。左側の高層ビルは講談社の新社屋、正面に護国寺の山門が見えます。群林堂の豆大福は健在で、早朝から行列ができています。
昭和50年卒・本木善崇(数学科教諭)

二人の胸像

——教職を離れるに当たり——

前教員 新宮 譲治

獨協中・高等学校非常勤講師に就任したのは1952(昭和27)年、秋であった。65歳で獨協埼玉高校を定年退職、その後三年目に、突然、獨協大学から呼び出されて日本近現代史を担当することになり、半年ほどの予定が四年間にわたった。73歳の年齢規定により教職を離れる。

昨年、「獨協学」という講座が始まって、その一部、大正・昭和期の学園史を「戦争・平和・獨協」と題して講義する機会を得た。今年もゲストスピ

ひろば

一カーとして教壇に立つ。

その時には、守備範囲から外れるが、独逸学協会学校初代校長・西周については触れることにしている。かつて「死して護国の鬼となれ」などと教育されたから、獨協に就任以来「おのれの生命は大鳥の羽毛よりも軽しと覚悟せよ」と示した軍

人勅諭の起草者と聞いていた西周にはこだわっていた。

第二次世界大戦も敗色が濃い一九四五年、中学三年生の私達は、舞鶴の海軍火薬廠で「回天」の弾頭を製造するため、罵声をあびながら飢えた駄馬のように働いていた。乗り込んでハッチが閉められた瞬間から、敵艦に人間魚雷となって体当たりするまで、いわば絶対死の時間を生きなければならぬ特攻兵器について、あれこれその意味を考えることもなく過ごした。

戦後、「平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと務めている国際社会におもて、名誉ある地位を占め

たいと思ふ」(前文)と書かれた現行憲法が公布されて、「生きることができる」という安堵感を持ったことは覚えている。

就任した当時の校舎は天野貞祐校長の表現を借りれば、「校舎の床板は破れ、その下からペンペン草がのぞき、家だにがはびこり」<『わが人生』(自由学園出版部)>という状況であったが、そこに集う生徒達の闊達さは、自分の中学時代を思い返して驚きであった。

勅諭が西周の起草文とは乖離していると思ったのは、一九六〇年代、『西周全集』(宗高書房)に目を通した時である。西の起草を山縣有朋らが訂正したらしいのである。

彼の言う「四海共和・無疆(境)治休」とは、カントの『恒久平和のために』を念頭においた概念のように思われる。明治初期の啓蒙思想家・西周が、単純な反戦思想家ではあり得ないが、戦前の日本人を縛った「天皇への忠節」精神を書いてはいない。それを知ってわだかまりが解けた。

カントはフランス革命を市民的秩序という理想実現の試みとしてとらえ、ルソー等の思想を、自国流に解釈し直してドイツ国王権力との対立を避け、独特の哲学的表現で書いた。

彼の著書『恒久平和のために』はフランス語に訳されてフランス国内でも読まれ、「国際連合論」

として世界平和論の主流となっていった。当然、西周の思想もこれら近代ヨーロッパ国家論・平和論に影響されていた。

校門を入ってすぐ脇に二人の胸像がある。西周の胸像は向かって左側であり、その右に立つのが天野貞祐である。

校長に就任後、最初に印刷されて全校の人びとが見た天野の文章は、「わたしの教育方針」『独協七十年』(独協学園)であろう。次のようにある。

「わたくしの教育精神は一言にして尽くせば人間尊重の思想である。(中略)戦前から戦時にかけて尊重されるべきものは国家のみであつて、個人は国家の単なる方便としてその存在に独立の意味が認められなかつた。はなはだしきに至つては軍馬の徴発には資金を要しても兵隊の召集には一銭五厘のハガキにて事足るとなし、ひとりの兵隊召集の背後に横わる一家の不幸の如きはさらに考へに上らなかつたのである」(原文のママ)。

天野は言うまでもなく有名なカント学者であり、第二次大戦後の獨協にとって「学園中興の祖」と言われる。

近代ドイツの市民主義思想に裏打ちされた二人の人物は、いわば獨協建学精神の象徴的存在である。学園の歴史は波瀾万丈に近いが、この二人に代表される理念に立ち帰りつつ存在した獨協を、社会は承認してきたのではなからうか。「獨協学」で話すあら筋はこんな内容である。

十五歳にして生き死にの問題を突きつけられていた時代と、一九五二年に踏み入れた学校との時代状況は違つても、私の経験した学園傘下三校の教職生活で、ある種の人を魅了する健康な雰囲気を感じてきた。

基本的に高邁な理想主義が息つく学園で、半世紀にわたる教職を送り得たことは私の誇りである。その学園史を、今後も耐える力がある限り探つてみたいと思っている。

クラス会幹事始末記

竹内 文生 (昭46年卒)

同窓会の仕事を始めて数年が経つたかと思ひます。同窓生諸兄からの寄稿、近況報告、クラス会

だよりなどを見ていますと様々な分野で多様な活動をされていることが分り、楽しいものです。

クラス会だよりなどで紹介されるクラス会の報告などを見ていますと、いわゆる常連といつても良いようなクラス会もあれば、新たなクラス会の開催の様子が伝えられることもあり、多彩です。クラス会だよりに原稿を送つてこられないクラス会も数多く開催されているかと思ひますし、また、卒後数回のクラス会開催の後休眠状態に入つてしまつたようなクラス会もあつたかと思ひます。そのようなクラスの方たちにとっては、他のクラスのクラス会の活発な活動にある種の羨望を感じたりしているのではないのでしょうか。

同窓会活動を考えてみますと、やはり同一の教室で学んだ学友との卒後も続く交流が基本であるかと思ひます。そして、クラス会だよりをご覧になるとおわかりだと思ひますが、単に卒業時のクラス単位のクラス会のみならず、学年を横断した同期会といったようなものや卒後進学した大学の中に獨協の卒業生の同窓会があり活動されていたり、現在居住している地域の同窓生が世代を超えて参集している会などもあります。さらには、これは獨協の特徴かもしれませんが、卒業生の中でも医師になられた方々が、同業ということで集まり、活動している獨協学園Doctor's club等もあります。そのほか、当然のことですが、学生時代のサークルのOBが集う活動もあり、いろいろな同窓会の活動がなされているのだと改めて感じさせられます。

様々な同窓生が多様なつながりで各種活動をされていますが、その基本となるのはやはりクラス会であろうかと思ひます。クラス会の活動が毎年のように定例に行なわれているクラスもあり、トンとクラス会が開催されていない場合もあつたかと思ひますが、私が経験したクラス会の幹事の活動の一端をご紹介させていただき、同窓生各位のクラス会活動が活発に展開されるヒントにでもしていただければと考えております。

かく言う私は、昭和46年卒高梨富士三郎先生のクラスでしたが、このクラス会も中断の期間もあつたり紆余曲折して現在の姿があります。卒業して最初の年のクラス会は、なぜか今でも覚えていますが、浪人生が何人もいたことからか代々木駅前のお好み焼き屋だつたように覚えています。未

成年の癖に一人前にビールなど飲み、調子に乗って騒いだことを覚えています。その後毎年クラス会を終えるときに次年度の幹事役を決めて再会を約束し分かれたものでした。クラスのメンバーの中には学生時代から仲の良かった友達同士しばしば顔を合わせているようでしたが、そうした友達同士の再会の中には悲しい再会もありました。確か卒後6,7年目だったかと思いますが、クラスメートであった大室正幸君の突然の訃報に接し、彼の通夜、葬儀で同級生と再会した時は言葉もありませんでした。彼は、大学院の修士論文を作成している中、ご家族が朝起きてこない彼を不審に思い、起こしに行かれて冷たくなっているところを発見されたと聞き、前途の夢が立たれたこと如何許りか無念であったか、病床に苦しむことなく、亡くなられたのがせめてもの救いかとも思った次第です。

その後も何年かクラス会を開催したかと思いますが、ちょうど私が幹事に当たった年、個人的にも多忙を極めていた時期でもあり、つついクラス会を開催するチャンスを逃し、一回が二回とクラス会を開催しないままに結局中断となってしまいました。仲の良かった級友とはお互いの結婚式やその他で交流もありましたが、クラス会を開催しないままに、卒後20年くらいが経った或る日、クラス会の開催の知らせが届きました。それによりますと、安達君、武井君が尽力され消息不明の級友の連絡先を探し出し散逸した名簿を再編して、クラスのほぼ全員の名簿が出来上がり、クラス会の再開に漕ぎ着けたとのことでした。忙しさにかまけて、幹事の役割が果たせず、大いに反省した次第です。そのような経緯もありまして、その後のクラス会は私が終身幹事とのことで私の責任で開き続けているところです。

再出発したクラス会では、主管の高梨先生をお招きし、大いに盛り上がり、それぞれのこれまでの消息を報告しあい、二次会、三次会へと繰り出し中には夜明け近くまで痛飲したものが出たほどでした。そのような中、また、峰沢君、石川君が鬼籍に入られた報告もありわがクラスの不幸を嘆きました。というのも、私たちのクラスでは、在学中に教室で心臓麻痺を起こし他界した金子君がおり、40歳を前にして、50人いた級友の1割近くを失ったことになり、くれぐれも自身の健康を大切にしようということになりました。

さて、再開後のクラス会から次に開催したクラス

会では、高梨先生が退職されるとのことで皆でお祝いの宴を催しました。席上、級友から中折れ帽子を贈呈しましたが、そのときの先生の嬉しそうなお顔は今でも心に残っています。

その後何回かクラス会を開催しましたが、そのたびに川越のご自宅から先生は会に出席され、白髪混じりの顎鬚がますます貫禄を見せるようになっていましたが、平成9年8月先生の訃報に接することになってしまいました。級友の間にすぐにこの知らせは伝わり、通夜、葬儀には学校関係者、ワンダーフォーゲル部OBに混じり多くの級友が集まりました。病氣療養中であったとのことでしたが、その消息については一部の級友が知っていただけでしたので大変驚きました。今になって思えば、安達君や武井君がクラス会を再開してくれたことが、とてもありがたいことに思われます。

高梨先生の通夜の席で、私が「獨協通信」の編集を手伝うように依頼されたのも何かの縁で、その後編集に携わっていますが、それまで同窓会とはあまり関係していませんでしたが、冒頭に紹介したように様々な活動がなされていることを知り、いろいろな経験をさせていただいている次第です。

さて、主管亡き後もクラス会は継続されていますが、同窓会総会へ出席する機会なども多くなりその席上で柏葉先生にお目にかかった際に、同期の同窓生の話題となり、中学時代同級であった平岩君が渋谷で串焼き屋（「串焼き たつみ」）を経営していることを知りました。そして、学年を超えた同窓生がしばしば顔を見せるということで、それ以降、彼の店でクラス会を開催するようになっていきます。クラス会の幹事の仕事を面倒なのは会場の設定と経費の見積もりですが、平岩君の店を利用させてもらうようになってからは、場所を決める手間が省けたことと、予算的に大体リーズナブルな金額で好き勝手に飲み食いできることもあり、予算を予め決めずとも気安く皆が集まれるので、日程を決めクラスメートに出欠の確認をするだけでクラス会が開けるようになり、大変感謝しています。

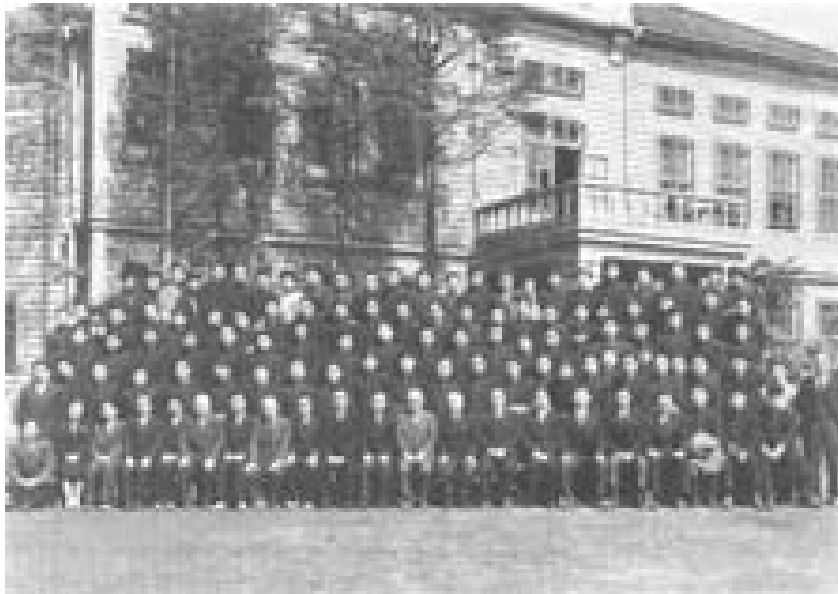
卒後30数年も経つとそれぞれに社会的にも責任ある立場に立ち活躍していたり、老親の世話や子女の教育などに関わることで多忙な級友も多いようで、最近は出席者が少なくなっていることが残念です。それでも、クラス会の案内を出せば、京都に移った片山君（旧姓月生田君）や山形で弁護士をしている

植田君などは日程が都合つく限り遠路出席してもらっています。また、金沢にいる山下君はさすがに仕事が忙しいのと遠路とで、クラス会を再開したときに参加して以来、出席できなくなっています。

そんな中で、何人かの級友から、インターネットを利用したホームページを立ち上げてみたらとか、メーリングリストを作って見ようとか、級友相互の連絡手段の工夫も話題になってきています。こうしたメディアの活用で、クラス会の日程の調整も皆の意向をもう少しきめ細かく聞いて決定できるのではないかと考えています。そしてまた、こうした環境を利用することでクラス会に出席出来なくとも容易に連絡の取れるようになり、今後、現役から身を引いた後も老後の交流の場として、クラス会の活動を続けていけるのではないかと考えています。

繰り返しになってしまいますが、こうしたクラス会の活動を基礎に、卒業年次が同じ同窓生が一堂に会する機会があれば、それも一興かと思われそうです。クラス会、年度会が核となり、同窓会がこれまで以上に発展することを祈念して、筆を置くこととします。

最後に、この一文が参考になり、休止中の各学年、各クラスでのクラス会が再開され、また、世代を超えた有志による地域毎あるいは職域毎の同窓会などが開催されればとればと願っています。



天野貞祐校長、第一回生卒業記念写真（昭28年）

天野貞祐先生こぼれ話

佐藤 明德（昭和28年卒）

私は天野先生が獨協学園の校長となられて第一期卒業生となります。昭和28年の獨協は、今の獨協とは想像すらできない惨憺たる幽霊屋敷の状態でありましたが、天野先生を迎えて後は若人の学生として、皆々活力みなぎり、勇気溢れる毎日を楽しんで過ごしておりました。

その後、20数年の年月が経ち、私の娘が目白の川村学園高等部を卒業する年の話となります。

娘の無二の親友が高校卒業と同時に結婚することになって居ましたが、学業に身が入らず、ついに2～3単位の不足のため、留年とならざるを得ない、との話を聞いたのです。

歯科医の娘として甘やかされていたことは事実だったのですが、私は零細企業の経営者として大きな希望を持って、日夜仕事に励んでいた身であったことも手伝って、川村学園の川村校長に直にお会いして卒業を許可して戴く行動を起こしたのです。その時の私の言葉の概要は次の主旨でありました。

「私の娘はこのたび無事卒業させて戴くことが出来ましたが、娘の親友である〇〇さんが単位不足で留年とのこと。しかも彼女は卒業と同時に結婚するとのこと。親は歯科医で家庭もしっかりしております。

そこで本人を川村学園中退又は、留年では本人も親も一生心に悔いが残ること必定。

私も隣組みの間柄でもある獨協学園天野先生の教え子でもあり、無理を承知で参りました。

我が母校は男子高、貴校は女子高、どうか良妻賢母の教育を第一義とお考えでありますならば、卒業の許可を与えてくださるわけには参りませんでしょうか」と。

若さと情熱で懇願いたしました。

この話を応接室で川村校長と同席の男子役員2人が聞いておりましたが、その中の一人の役員が次の様に話されました。

「二月の寒い日でもありました。……」

以前に私立校の公の書類を獨協にお届け致しまして、初めて天野貞祐先生にお会いしました。ストローもなく板貼りの応接室は古色蒼然として、文部大臣の居る所では可哀相、とっておりましたが、帰りがけに玄関までお見送りくださり、外套まで着せ掛けてくださいました。

今だにその時の暖かいお心づかいに頭の下がる思いでした。

その天野先生の教え子の申し出でもあり、なんとかご希望に沿うよう取り計らってみましょう」と約束されました。

その役員と思われた人とは、斉藤十九八先生と

言い、その後、白寿に近い御年まで御交誼に預かりました。有難いことと感謝しております。

天野先生の遺徳は存在そのものが価値であり、哲学者を超越して真の教育者として名を馳せたことは、我々の誇りとするところであります。

そして最後に、前頁の卒業写真を見る限りでは、ボロ校舎とは失礼ながら言えない位に厳然として古風ではありますが撮影少し前に東側階段が崩落し講堂に上れない危険な状態ではありました。

私事となりましたこととお詫び申し上げます。お詫びと訂正

獨協通信第61号の同窓会会長の「獨協学園創立120周年記念式典盛大に挙行され、宮田会長祝辞」の文中に誤りがありました。会長にはご迷惑をおかけしたことをお詫びすると同時に本文の2ページ5行目「品川弥二郎が棒読みし」を「品川弥二郎が奉読し」と訂正させていただきます。

平成16年度大学別合格者数（延べ人数）

進路指導部・平成16年4月5日現在

＜国公立大学＞		呉大学	1	中央大学	12	日本獣医畜産大学	2
帯広畜産大学	1	慶應義塾大学	8	中央学院大学	3	日本体育大学	1
埼玉大学	1	工学院大学	2	中京大学	1	文教大学	1
東京大学	1	國學院大学	1	帝京大学	1	法政大学	12
一橋大学	1	国士舘大学	1	帝京平成大学	2	星薬科大学	1
宮崎大学	1	埼玉医科大学	1	テンプル大学	1	武蔵大学	1
東京都立大学	1	芝浦工業大学	5	桐蔭横浜大学	1	武蔵工業大学	4
横浜国立大学	1	順天堂大学	2	東海大学	2	名桜大学	1
小計	7	城西大学	2	東京工科大学	1	明治大学	13
		城西国際大学	1	東京工芸大学	3	明治学院大学	2
＜私立大学＞		上智大学	4	東京国際大学	1	立教大学	13
青山学院大学	4	湘南工科大学	1	東京歯科大学	3	立正大学	1
岩手医科大学	1	昭和大学	4	東京慈恵会医科大学	1	早稲田大学	19
江戸川大学	1	昭和薬科大学	1	東京電機大学	7	小計	263
大阪芸術大学	1	聖学院大学	1	東京農業大学	5		
学習院大学	4	成蹊大学	8	東京薬科大学	1	＜文科省所管外＞	
神奈川大学	2	成城大学	6	東京理科大学	12	水産大学校	1
神奈川工科大学	1	専修大学	1	東邦大学	5	防衛大学校	1
神奈川歯科大学	1	第一薬科大学	2	東洋大学	4	小計	2
川崎医科大学	1	大東文化大学	4	東洋学園大学	1		
関西大学	1	高崎健康福祉大学	1	獨協大学	15	合計	272
関西学院大学	1	高千穂大学	1	獨協医科大学	3		
北里大学	2	拓殖大学	1	日本大学	19		
共立薬科大学	2	千葉工業大学	2	日本医科大学	1		
国立音楽大学	1	千葉商科大学	1	日本歯科大学	2		

学 園 だ よ り

◆186人を送りだす —獨協高等学校卒業式

第56回獨協高等学校卒業証書授与式が3月10日、大森健一学園理事長、宮田和夫同窓会会長らの臨席のもと、百周年記念体育館で行われた。

永井伸一校長は「一人一人が地球上でどう生きるか哲学をつくっていかなければならない。皆さんは夢と希望を持って地球上で尽くせる人になって欲しい。若いころ身につけたことは人生の基本になる、個人の努力で夢を叶えて欲しい。」と語りかけた。

宮田会長からは5人に同窓会特別賞として賞状と記念品が、卒業生全員にDマーク入りのネクタイピンが贈られた。

◆200人の新入生 —獨協中学入学式

平成16年度の獨協中学校の入学式が4月6日に行われた。永井校長は式辞の中で「今年の入試は例年になく厳しく、それを突破した諸君は自信を持って我慢強く、忍耐力を持って勉強して

欲しい」と呼びかけた。新入生を代表して根本大暉君の力強い宣誓があった。

◆日本大学医学部獨協会より寄付

日本大学医学部獨協会（会長・荒川泰行医学部教授、35卒）より図書購入のための寄付申し出があった。図書館だより参照。

◆獨協中学・高等学校人事

退職 飯島 義信（社会科）

◆2004年度 編転入試験実施のお知らせ

獨協中学・高等学校では、一家転住者のご息および海外からの帰国生徒を対象とした編入試験の実施を、7月中旬に予定しております。日時、学年、受験資格等詳細につきましては、教務部(若井)までお問い合わせください。

獨協中学・高等学校入試対策室

TEL 03-3943-3651

図書館だより

いま中・高生がどんな本を好んでいるか、ご存じですか？ 中学生なら、ダレン・シャン、デルトラ・クエスト。ご存じない。そうですか。無理もありません。仕事である私もつい最近生徒に教えられたファンタジーのシリーズです。でも大人気なんです。他にも、「スター・ウォーズ」や「ハリー・ポッター」なら映画とタイアップしていますからご存じですよ。 「スター・ウォーズ」の文庫本って、なんと60冊以上出ているんです。驚きです。高校生になりますと、少し背の高い連中が身をかがめて、文庫本の低い書架をのぞいています。「お」の棚を見ると、小野不由美、恩田陸、乙一。棚にいくら並べてもすぐに貸し出される若手の人気作家たちです。ちなみに、3人目は「おついち」と読みます。

こんにちは。2003年度より、情報センター一部主任を務めております国語科の柳本です。母校のことを、いつもあたたかく見守ってくださりまして、本当にありがとうございます。おかげさまでいま、図書館は大変な盛り上がりを見せています。それは主に下記の3つの理由によります。

① 全国の私立中高、年一回の研修会で、本校がモデル校に選ばれ、03年8月、北海道から沖縄まで多くの学校関係者が図書館見学を訪れたこと。

② 中学のいくつかの学年で朝の10分間読書が始まったこと。これは、朝のホームルームの時間を使って書物に親しもうという全国で広まっている試みです。

③ 司書教諭が中心となって行う積極的かつキメ細かいレファレンスや授業・自由研究との連動。

これにより、年間の貸出数は一気に倍増。前年度の6000冊台から1万2千冊を超えました。これもひとえに、ご寄付をいただいています先輩方からのご助力にあることは肝に銘じております。図書館内には、ご寄付により購入することができた多数の本があります。本当にありがとうございます。ところが昨年度から、何かご事情がおりなんでしょうか、同窓会からのまとまったご寄付がいただけなくなってしまいました。より盛り上げていくためには、なんといっても、充実した新刊書の補充に尽きます。日大医学部の獨協会からは引き続きいただいておりますが、なんとか同窓会からのご寄付を復活していただけますよう、切に願います次第です。

また、明るく開かれた図書館をめざしております。お近くにお立ち寄りの際は、どうぞその充実ぶりをのぞいてやってください。心よりお待ちしております。 (情報センター一部主任 柳本)

私の近況……卒業十周年

○当方、今年（2004年）97才です。

牧 祥三（昭3卒）

○平成15年暮に米寿を迎え細々ですが、地域医療に貢献いたしてまゝです。長崎医大在学中に被爆し、後遺症の不応性貧血がありながら、好運と言うか、生き延びております。友人達は殆んど亡くなり淋しい毎日です。特別な健康法をしている訳なく禁酒・禁煙・よく寝て、よく食べての生活です。現在の日本社会の乱れ、又、世界も戦いが続き不安な世の中、戦争のない平和な社会になるよう祈るばかりです。

田中 稔（昭9卒）

○いつの間にか88才になりました。本当に年月の過ぎ去るのは速いですね。今は大好きな油絵をかいたり漢詩を作って大切な日々を送っています。獨協時代は生徒としても教師としても大切な思い出にあふれた日々でした。

植田 力（昭9卒）

○獨協に学べてよかった。良き師、良き友に恵まれ、特に同級生の池谷正洋君、中原爽君のお蔭で歯科医師になれました。卒後50年経た今でも、心から感謝しています。

増田 栄三（昭29卒）

○現実には卒後50年を経ました。しかし、その実感が無いほどに走り去った印象です。3年前管理的場面から退き診療される立場を理解しようと努め勤務医を続けています。

村上 弘司（昭29卒）

○都電に乗って、浅草から通学してました。「たけくらべ」に出て来る大正時代の臭いが未だ残っている様な時代でした。木造校舎を後に、坂を下り関口フランスパンを買って帰った事、獨協時代の思い出が今も沢山胸の中にあります。感謝。

高鷲 忠伸（昭29卒）

○卒業後半世紀になり天野先生より直接教養を受けた、勤勉、努力、清潔、規則正しく、礼儀正しくを忠実に守り（うそつけ）ましたが、今だにビジネス界より卒業出来ずにおります。不治のガンとの戦いも5年、そろそろ全てに卒業です。

上田 素之（昭29卒）

○日本の製薬企業を定年退職後、外資系製薬企業に7年間勤め、一昨年退職しました。外資系企業の思い切った（Drastic）やり方には目を見張るものがあり、いろいろ勉強になりました。

小島 敏昌（昭29卒）

○獨協高校を卒業後群馬大医学部へ進学卒業小児科医となりました。大学院が細菌学専攻であったので、小児感染症を専門としてきましたが、昭和60年思うところがあって重症心身障害児施設に勤務し、以後重症心身障害児の感染症をテーマとして今日まできています。獨協は私の青春の心のふるさです。

町田 裕一（昭29卒）

○獨協在学6年間は卓球部部活動に終始、諸先輩、先生方との無数の思い出があり、私にとってとても有意義な時代でした。現在、地域社会の商工業・まちづくりボランティアをしています。

足立 菊保（昭29卒）

○8年前から脳外科、呼吸器科、泌尿器科の患者で、11種の薬剤を常用しています。とくに発作などは無いのですが、昨年11月頃から心身の劣化によるものか不快感が伴うようになりました。しかし、『武蔵野獨協協会』は、今年も続けて開きたい。また、一昨年、学年クラス会で50名集まった旧友と再交流ができた。70才に再会しましょう。

西野谷 忠男（昭29卒）

○現在、私生、風邪を拗らせ、体調を崩して、「獨協通信」の依頼の件、筆をとる気力、資料不足等ありて次回にでもして頂きたいと思っております。木下空太郎先生について一筆書こうと思っています。

福嶋 照雄（昭29卒）

○高校在学中、文部大臣だった天野貞祐校長の迫力ある就任挨拶を聞いたことが、自分の将来に大きな力になったと今でも思っている。東京都交通局に43年在職し、都営地下鉄の馬喰駅務管理所長を最後に定年退職し、延べ60か国を家内と二人で訪ねたいと頑張っています。

橋本 誠一郎（昭29卒）

○今年学生時代に所属した端艇部が100周年を迎えます。いつの間にか編集委員の1人に加えられ学生時代と同じボートづけの毎日を過ごしています。100才から18才までの巾広い所帯、編集の苦勞連続です。

宮田 雅則（昭39卒）

○東京オリンピックの年テレビを観戦しながら受験生活をし無事現役で医学部合格した。あれから丁度40年当時尊敬する天野貞祐先生のお教えが59才になって少し理解できたかな、いやまだです。耳鼻科開業25年、いまだおとろえず頑張っているのは学生時代からゴルフを続けている為でしょう。老いてますますハンディが上がり6を維持しています。

池松 武臣（昭39卒）

○昭和47年に新妻犬猫病院を開業し、小動物臨床に従事して32年になります。お陰様で本年4月には還暦を迎える事になりました。現在は東京都鳥獣保護員、動物愛護推進員として活動し、長女が連れて来る孫の顔を見るのが楽しみです。

新妻 勲夫（昭39卒）

○卒業記念に頂いた、天野貞祐著「新時代に思う」（創元社、昭和33年）、そして「島地威雄先生追悼録」（昭和40年）の2冊の本は、卒業後40年間の東京歯科大、東北大、筑波大、岩手医大時代の人生の指針となった。有り難う獨協学園。

久保田 稔（昭39卒）

○八王子で皮膚科を開業しています。今春から長女は女子大生、次女は高校生になりますが、昨年念願の長男が誕生し、久し振りの子育てを楽しんでいます。ワインその他の趣味は当分の間、お休みです。

大澤 幸一郎（昭49卒）

○写真家として蝶の生態図鑑、写真集を手がけました。出版業界は只今厳冬期。寒い思いをしておりますが、新計画進行中。乞う御期待！弟（獨協高卒）の長男がこの春より獨中に。松本 克臣（昭49卒）

私の近況……卒業十周年

○編集部の葉書を見て、改めて30年の時の流れを感じております。気が付いてみれば48才、子供は今年大学生。健康第一と週末にはスポーツクラブで汗を流しています。 山崎 好夫(昭49卒)

○ジェットスキー(水上バイク)を始めた。湖や川でやってんじゃないよ。伊豆七島の式根島。外洋の真只中。トラブルたら死に直結。スリルたるや、最高にゾクゾク。たっまらな一い。

白須賀 岳樹(昭49卒)

○大学時代より親しんだアメリカンフットボールに嵌り続けています。プレーヤー、ヘッドコーチを経て現在は公式審判員としてグラウンドに立っています。今年のお正月には日本一決定戦のライスボウルのジャッジをし、新たな感動を与えてもらい、感慨を深めました。「価値ある大いなる無駄」を求めてこれからも年令を重ねていきたいと思っています。

馬島 敦(昭49卒)

○障害をもった子が健やかにくらせる理想の国を求めて埼玉から北九州そして仙台に移りすみました。宮城県立こども病院で小児科医として働いています。インド弦楽器サランギの演奏家としても人の和をひろげています。

奈良 隆寛(昭49卒)

○高校時代は、フォークソングが好きでした。最近又、音楽が恋しくなってきたアコースティックギターを引っぱり出してビギンやビートルズの曲を歌って楽しんでます。

渡辺 哲之(昭49卒)

○昨年は肘、今年に入ってすぐに口腔内を手術。なぜか切りまくっている今日この頃です。

村上 進(昭49卒)

○卒後30年余りが経ち、そろそろ気持と体にづれを感じる年になってまいりました。下町葛飾で歯科工業を営む傍ら、趣味の溪流釣りを楽しんでおります。最近、溪流の魚も実入り同様めっきり減って、釣師にとっては寂しい限りです。とっておきの穴場などありましたら、こっそりお聞かせいただければ幸

いです。 柳原 健司(昭49卒)

○千葉県鴨川市内の病院に勤務しております。時々、学生時代の事が懐かしく思い出されます。

小林 潔(昭59卒)

○仕事の都合で鹿児島、新潟に各々3年いました。4月から東京です。思いでは「先生・友人」「中庭野球」「喜びの歌」「コバベ」です。そろそろクラス会位あってもいいのでは？

長島 鎮(昭59卒)

○最近、僕は自家製ビール作りに凝っている。売っているキットで割合簡単に作れ、しかも旨い。もちろんコツはあるが、プロセスが楽しい。友人に問われたときにはご馳走する。 塩島 功一郎(昭59卒)

○卒業後、獨協医科大学に進み、その後も現在まで獨協医科大学越谷病院眼科で勤務しています。20年間ずっと獨協です。

中村 昌弘(昭59卒)

○南インドのケララ州にあるNGOシーズ・インディアでボランティア・スタッフとして働いています。

山ノ下 達(昭59卒)

○内科医になって13年目です。昨年2月より、津田胃腸科医院の4代目の院長になりました。東洋医学を取り入れて日常診療を深めているこの頃です。

津田 恭彦(昭59卒)

○仙台・白河・酒田・札幌と転勤。次はどこなのか？その土地にある「うまいもん」をととても楽しみにしています。

小島 英明(平6卒)

○平成13年に九州歯科大学卒業。平成17年に博士号取得を目指し、現在母校に留り昼夜、研究と勤務に明け暮れています。昨年平成15年に結婚し、間もなく双子が誕生予定です。今後3年間位アメリカでの研究を国費留学で希望しています。

管野 貴浩(平6卒)

○市役所で防災と消防の仕事に携わらせてもらっています。火災現場でその原因を知るたびに、ほんの少しの注意不足が招く大変な結末を痛感させられます。

内田(旧姓・石川) 雄介(平6卒)

クラス会だより

昭和25年卒 大豆会

22名の大豆会員が10月25日、御徒町の吉池池田屋に集合クラス会を開催した。恩師大久間喜一郎先生に連絡を取り出席を依頼しましたが当日富山高岡の万葉歴史館で大きな会議があり出席出来ぬとの返事で次回を期待したい。しかし昭和25年卒業以来初めて鈴木現充(前トクホン社長)君が出席され次回からは必ず出席するとの確約を得た。我々は去年平成16年には独逸学協会中学入学60周年になりま

す。これを記念して1泊旅行の外に何か行事をしようとの提案もあります。市村幹事は大変な年となるでしょう。今回集合写真が撮れなかったので獨協



クラス会だより

通信に無理をお願いしてスナップ写真を入れてもらう予定です。(岩崎 恒明・記)

昭和26年卒 独語組クラス会

03年12月9日(火)夕、神楽坂「トリノ」でクラス会を行いました。4年ぶりの開催でしたが、19名が出席(前回17名)、楽しい集いとすることができました。この間に渡辺新之助、穂本達之助の両君と店のオーナー赤平正健君(27年卒)が亡くなったことは大きな悲しみでした。当夜は春に勲四等瑞宝章を受けた久保木哲彦君に全員で祝盃をあげた後、年1回かならず開催しようと約し散会しました。

(土屋 隆・記)



昭和28年卒 第19回双葉会

平成16年3月27日(土)、駒込・六義園の桜を観る会を併有させ、北の門前の料理屋・思い川にて開催する。

昨年23名の出席に次いで今年は、70才の古希の記念の年でもあり、第1回開催より19回迄、全記録を記載したパンフレットを作成、物故者名簿も併記した。その結果、今回の出席25名に対し、物故者25名



と期せずして同数となり、年令の重みを各々感じた次第。

その上、渋谷幸夫君の好意により70分ビデオを作成出来、会員の自己紹介の他、故人の写真、クラブ活動写真を入れ、わざわざ獨協新校舎に3度も出向き、正門の桜、同窓会室、講堂、体育館、グラウンド、各部室も撮り入れ、記念品としては完成されたテープとなったことは誠に有意義なものとなった。

集合写真が失敗したので、会場内雰囲気だけの写真掲載となり申し訳ない。しばらく振りに校歌斉唱、来年度の開催を約し、散会した。

(佐藤・記)

武蔵野獨協会

昨年11月26日、吉祥寺「大浜」で開催。15名参加。来賓に大久間喜一郎先生を迎えた。

恒例の自己紹介と近況報告は、お互いを目白台に結ぶタテ糸である。いつの間にか青春の日々が甦える。大盛会。

一年前に肺ガンの手術をされた酒井農史さん(昭28年)が復帰された。全盛時の面影は消えたが、ご自分の病状やドイツ在住の実兄昌美さん(昭20日中卒)のことなどしっかりした口調で語られたのは印象的であった。

昨年12月31日午後2時、武蔵野獨協会創設メンバーの一人、酒井農史さんは永眠された。ご冥福を心からお祈りする。(西野谷 忠男・記)



昭和38年卒 高校卒業後40年記念同期会開催

昭和38(1963)年高校卒業から、早くも40年が過ぎた。この際、40年記念の同期会を開こう!、とい

クラス会だより

う声が高まり蘇武君らを中心に計画が進んで、11月29日(2003年)、アルカディアで50人が参集した。なつかしい顔、ひさしぶりに会い名前が出て来ない顔、ところどころであがる歓声、いつものクラス会のにぎやかさになった。栗原直大先生、横山武人先生、そして吉田卓司先生の3人をお招きしたが、我々同期生に比べて先生方の変わらないお顔に、参加者一同驚いたり、喜んだりであった。

来年(2004年)は我々の還暦、次回は還暦同窓会を開こう!、ということになり、次回の再会を約して散会となった。幹事の方々の献身的な努力に感謝の意を表す次第である。(合田 憲・記)



昭和49年卒 3組クラス会

昭和49年卒3組のクラス会が金有一先生をお迎えし、平成16年1月17日(土)に開催されました。当日は、雪がちらつくのも忘れ、年明けに相応しく月日の流れを感じさせないほど大いに盛り上がりました。今回は、私自身第1回のクラス会以来の参加でしたが、青春時代にタイムスリップしたような楽しい一時を過ごすことができ、ぜひ次回以降もこの素晴らしい会に出席したいと思っております。(山崎 好夫・記)



昭和54年卒 クラス会

去る平成15年12月6日(土)、銀座一丁目居酒屋「土間土間」にて、昭和54年獨協高等学校卒業生同窓会が開かれました。中学担任 新宮譲治先生、高等学校担任 飯島義信先生、共に来春、退任とのことで、中、高、ドイツ語教室生徒15名が両教諭を囲み、2時間、飲み放題の祝宴となり、締めくくりとして両教諭より、退任後の抱負を賜り、生徒より記念品の贈呈をもって、お開きとなりました。ここに御報告させていただきます。(谷口 真規・記)



平成11年卒 無雷部

去る平成16年3月19日、池袋「東明龍鳳」にて、顧問の富岡卓先生をお迎えし、平成11年度卒業生による「無雷部10周年記念会」が開催されました。

当日は8名の部員が集い、第一回村井賞の表彰式や近況報告といった賑やかなプログラムが続き、盛大かつ和やかな宴となりました。とりわけ、獨協中高時代の話題は終始尽きることなく部員にとって充実した一夜になりました。

(小嶋 慶也・記)



物故者名簿
『獨協通信』60号以降

卒業年・氏名・物故年月日																																																																							
昭02 川辺 敏哉 平14.2.3	昭17 石坂 元雄 平15.1.9	昭26 河村 與一 平9.9.19	昭03 井上 信夫 平13.2.1	昭17 伊藤 孝安 平15.5.27	昭26 大波 勇 平15.3.17	昭06 萩原 慶三郎 平15.6.5	昭17 関根 正俊 平15.1.24	昭27 近藤 武 平11.10.17	昭07 伊藤 彊 平14.10.29	昭17 高橋 力郎 平15.2.17	昭28 酒井 晨史 平15.12.31	昭07 友石 進 平15.6	昭17 篠塚 静夫 平13.2.17	昭29 中野 了一 平15.1.31	昭07 萩原 巖 平14.7.12	昭17 村田 和夫 平14.10.9	昭31 中村 好伸 平14.11.27	昭08 池田 典夫 平14.10.28	昭17 謝 國権 平15.11.12	昭32 植村 俊則 平15.6.12	昭08 越野 剛平 平15.1.7	昭18 尾山 謙 平15.1.5	昭34 若林 安行 平14.10.19	昭08 瀧口 正典 平15.3.24	昭18 世鹿 威 平15.4.23	昭35 内田 征博 平14.11.27	昭09 勝木 辰男 平15.9.8	昭18 鈴木 彊 平15.2月	昭36 軽部 勝康 平14.6.21	昭09 劉 欽賢 詳細不明	昭18 高橋 良保 平14.10.7	昭36 桜田 弘人 平15.5月	昭10 関根 嘉雄 平14.5.8	昭19 植林 実朗 平13.5.8	昭36 小倉 靖秀 平14.5.16	昭10 野村 富雄 平15.3.22	昭20-4 久保田 泰夫 平12.6.22	昭36 白土 昇司 平5.12.30	昭12 高橋 正彦 平14.10.18	昭20-5 貝原 傳次郎 平15.1月	昭37 田中 敏雄 平8.10.2	昭12 馬場 栄達 平14.9.19	昭20-5 石井 和夫 平15.4.19	昭39 渡辺 公宏 平15.4.8	昭12 岡本 弘 平15.4.4	昭20-5 佐々森 進 平15.12.30	昭41 安藤 峰雄 平14.5.27	昭13 浅田 幸男 平13.10.11	昭20-5 竹内 正享 平13.11.3	昭41 合田 舜 平16.3.12	昭14 伊藤 啓一 平11.6月	昭22 五味 寛一 平15.5.27	昭42 小田 利夫 平14.7.5	昭14 栗原 和雄 平13.4月	昭23 茅原 正隆 平13.1.30	昭42 福田 憲二 平15.1.1	昭14 小林 泰一 平14.8.27	昭23 小笠原 信之 平15.2.7	昭45 吉川 哲夫 平8.6.16	昭15 岡安 孝 平15.3.15	昭23 長井 肇 平16.2.12	昭51 杼窪 精 平14.8.16	昭16 手塚 毅 平15.1.4	昭25 石川 卓司 平15.5.5	昭58 加藤 幹彦 平9.11.29	昭17 渡部 滋 平15.1.23	昭25 松崎 正明 平14.10.13	昭59 久保田 信雄 平13.11.8	昭26 横山 達夫 平16.2.12	平01 村井 秀一 平14.6.30	昭26 穂本 達之助 平15.4.16

▶返信はがきの職業欄は、右表及び下記の記入例に従って、ご記入ください。(名簿作成のための資料をより正確にするためです) ◀◀

(例1)

勤務先	獨協外科医院 (開業)		
職業別No.	29	.	電話
		

(例2)

勤務先	獨協不動産(株).....部長		
職業別No.	15	.	電話
		

事務局だより

事務局へのお電話でのご連絡は同窓会の事務を手伝って頂いている白須加さん、大蔵さんが対応のできる水曜日12時半から4時まででお願いします。なお、Faxは常時受け付けています。また、『獨協通信』への原稿についても下記のメールアドレス宛に送付していただくと編集作業がスムーズに進みますので、よろしくお願ひします。

(dokkyou-dousoukai@ma.neweb.ne.jp)

編集後記

本号では、編集作業の合理化を図りました。皆さんから頂きました原稿を専門のデータ入力業者さんに送り、入力されたものをメールで送付して頂き、そのままパソコン上で編集作業をしています。仕事の合間を縫っての編集作業では大いに助かります。

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 水産・農林・鉱業 | 25. サービス・外食・料理旅館 |
| 2. 紙・ハルフ・繊維 | 26. 芸術・文化 |
| 3. 科学・医薬 | 27. 宗教・各種団体 |
| 4. 石油・ゴム・硝子・窯業 | 28. 学生・その他 |
| 5. 鉄鋼・金属 | 29. 医師：開業医 |
| 6. 電気機器・機械 | 30. 医師：勤務医 |
| 7. 造船・自動車 | 31. 歯科医師：開業医 |
| 8. 事務機その他機器 | 32. 歯科医師：勤務医 |
| 9. その他製造業 | 33. 薬剤師 |
| 10. 電気・ガス・水道 | |
| 11. 商社・卸売 | 医師の診療科一覧 |
| 12. 百貨店・スーパー・小売 | 1 内科 |
| 13. 銀行・その他金融・保険 | 2 外科 |
| 14. 証券・商品先物 | 3 整形外科 |
| 15. 建設・不動産 | 4 小児科 |
| 16. 陸海空運・倉庫 | 5 産婦人科 |
| 17. マスコミ・通信・広告 | 6 眼科 |
| 18. 情報・コンピュータ関連 | 7 皮膚科 |
| 19. 議員・公務員 | 8 耳鼻咽喉科 |
| 20. 教育 | 9 精神神経科 |
| 21. 設計士・エンジニアリング | 10 泌尿器科 |
| 22. 弁護士・会計士・税理士・その他資格士 | 11 放射線科 |
| 23. 出版・印刷 | 12 麻酔科 |
| 24. 医薬・化粧品販売 | 13 その他 |

また、本年中には同窓会のホームページが獨協中学・高校のホームページとリンクされ、立ち上げる計画もあるようですので、『獨協通信』ともども良いコミュニケーション媒体となるのではと思っています。(竹文)